

排水機能の強化により、 湛水被害を防止するとともに産地収益力を向上する



農林水産省、富山県



とんみ
富山県砺波市ほか3市



国営総合農地防災事業「庄川左岸」
県営農村地域防災減災事業
「庄川左岸(一~四期)」

■ 湛水被害の防止

対策前 平成20年7月豪雨
最大時間雨量:32mm
最大日雨量:114mm



水路からの溢水により道路及び農地が冠水。

対策後 令和5年7月豪雨
最大時間雨量:56mm
最大日雨量:213mm



排水路に新設した余水吐へ雨水が流入している様子。
余水は幹線排水路に流入する。

事業費

479億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)34億円)

事業の背景(地域の課題)

本地区は、県内有数の農業地帯である一方で、都市化・混住化の進展による農地の減少に伴い、排水の流出形態が変化(排水量が増加したことにより、広範囲にわたる農地、農業用施設等で、頻繁に大きな湛水被害が発生していました。また、農地面積や農業就業人口が減少する中で、農業生産の維持や農業生産性、産地収益力の向上による農業経営の安定を図り、国土の保全に資するためにも、排水機能の向上が必要でした。

事業の内容

排水路の新設・改修47.0km、洪水調整池の新設9か所(洪水調節容量 計297.7千m³)、余水吐きの新設等を行い、農地約6,200haを含む地域全体の排水機能を向上させました。



排水路

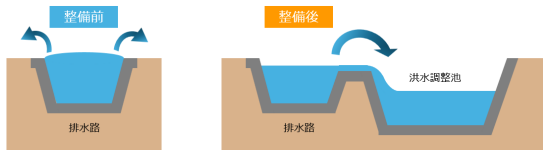


分水場



調整池

洪水調整池のしくみ

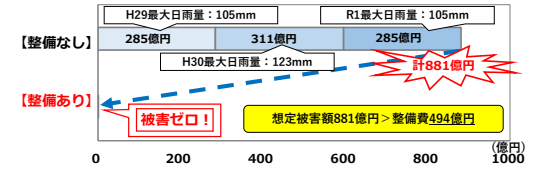


洪水調整池は、洪水時に水路の水が増えた場合、水路の水を流入させて一時的に貯留し、流出量を調整する施設で、下流の排水路への排水を少なくすることができます。洪水調整池に貯留した水は、洪水が収束した後で、安全を確認しながら徐々に下流域へ排水します。

効果

■ 湛水被害の防止

平成20年7月の豪雨(日雨量121mm)では、農地や農業用施設、公共施設等に大きな被害が発生しましたが、事業実施後、同程度の雨量を観測した3回の豪雨では被害をゼロに抑え、約881億円の想定被害を未然に防止しました。



■ 高収益作物の導入と栽培技術の向上

湛水被害が防止されるようになったことで、水田の畑利用が促進され、高収益作物(たまねぎ)が導入されました。また、県・市・JAが連携し、生産体制の整備(機械化一貫体系の構築)を図るとともに、湿害対策等の技術支援を行うことにより、栽培技術が向上しました。



たまねぎの作付け



たまねぎの収穫

■ 出荷体制の整備と6次産業化の推進

出荷体制の確立(乾燥施設や保冷施設、加工施設等の整備)により、作業効率や品質が向上しました。また、販路拡大に向け、規格外品のたまねぎを使い、レトルト商品や焼酎を開発する等、6次産業化を推進しています。



出荷施設の整備



加工食品の開発・販売

■ たまねぎの大規模産地化の実現

事業を契機として、農地等の湛水被害が解消されたことにより、たまねぎについては生産体制の整備と栽培技術の向上も相まって、作付面積、単位面積当たり収量(単収)、販売額が飛躍的に向上しました。

